

1. 事務局の参考コメントに対する修正・削除等

計画番号と評価事項 (※計50項目 番号は中期計画及び年度計画の番号)	大学 自己 評価	R4年度(2022年度)評価 6つの視点の評価(案) ※委員意見を反映							御意見	御意見を踏まえた事務局案
		顕著	独自	新規	着実	注目	課題	該当 なし		
		15	学生への経済支援	A	⊖		⊚			
19	地域課題の解決に貢献する研究の推進	A	○		○	⊚			【中本委員】 地域課題解決に向けた取組の中で、特に、「緑の流域治水」に係る研究は、令和3年度にJST(科学技術振興機構)の支援が決定し、取組を始めたものであるが、委員御指摘のとおり、令和4年度も新聞・テレビ等で多数取り上げられていることから、「注目」に該当すると思いました。	地域課題解決に向けた取組の中で、特に、「緑の流域治水」に係る研究は、令和3年度にJST(科学技術振興機構)の支援が決定し、取組を始めたものであるが、委員御指摘のとおり、令和4年度も新聞・テレビ等で多数取り上げられていることから、「注目」を追加し、委員会にお諮りする。
25	学生と地域の食育・健康に関する取組	A			⊚	○			【池上委員】 「独自」との評価を加えることが適当。理由は、毎年「着実」の評価が与えられているが、大学基準協会の認証評価において優れた取り組みとして評価されており、独自性を評価することが適当と考えたため。	平成30年度に策定した新「食育ビジョン」に基づき、幅広い取組を継続的に実施していることから、「着実」と評価している。その中で、熊本県内の様々な地域の食の魅力探し、学食でのメニュー開発などを行う「食ベラボ」の活動等、独自の取組を展開している。これらの取組について、大学基準協会の認証評価(R5.3)においても、「将来的に地域の食生活に関する課題解決を推進する取り組みとして評価できる。」との評価を受けていることから、委員御指摘のとおり「独自」を追加し、委員会にお諮りする。
26	他大学・研究機関等と連携した研究活動の推進	A	⊚		○	⊚			【中本委員】 昨年と同様に、地域共創拠点における連携が具体的に展開されたと考え、「顕著」「注目」に該当すると思いました。	項目番号19と同様、特に、「緑の流域治水」に係る研究について、新聞・テレビ等で多数取り上げられていることから、「注目」を追加する。また、令和3年度に県立大学を中心とした「緑の流域治水」に係る研究に対するJST(科学技術振興機構)の支援が決定したことに続き、令和4年度に熊本大学等と連携したグローバルDX人材や半導体人材輩出を目的とした大学間連携事業が、文科省補助事業の「地域活性化人材育成事業(SPARC)」に採択されたことは、顕著な取組として評価できることから、「顕著」を追加し、委員会にお諮りする。
35	SD(教職員の資質向上の取組)の計画的な実施	A			⊚			⊖	【池上委員】 「着実」との評価を与えることが適当。理由は、目標実施回数が3回以上のところ14回開催されていること、必修研修はオンデマンドではあるが100%を達成しているため。	SD(スタッフ・ディベロップメント)については、R2年度から目標(3回)を上回る回数(10回以上)を継続して実施していることから、委員御指摘のとおり、評価に「着実」を追加し、委員会にお諮りする。

2. その他、業務報告書の内容や評価にかかる質問・疑問等

番号	質問・疑問等	質問者	大学からの回答
8	アセスメントプランに設定された指標に基づく分析・検討・評価の具体的な内容は何か。学部・研究科ごとに取り組み方が異なるようだが。	池上委員	学部の指標については、学力向上を中心としながら、学習意欲や欠席率等の指標を就学支援関連の対策の検討に活用することも視野に入れている。大学院については基本的には院生への指導に関する検証指標として設定している。各学部・研究科ごとの相違については、それぞれが固有の課題・目標としているものに対する取組の効果検証のために設定したことによるものである。